

2017年度 中国支部講演会・現場見学会報告
『矢板工法の今。いまさら聞けないトンネル親父の矢板工法講演会』

NPO 法人臨床トンネル工学研究所 地域活動部会
中国支部長 石田 滋樹

地域活動部会活動の一環として、2017年4月25日に広島市内（RCC文化センター）にて標記の講演会を開催いたしました。この講演会は2月に関東支部主催で開催されたものですが、たいへん好評であったため、ほぼ同じ内容にて西地区でも企画いたしました。参加者は定員予定50名のところ、60名の参加が参加されました。

3人の講師による話題提供で構成され、まず最初に、寿建設（株）森崎氏による、矢板工法における施工のポイントや日本最初の道路トンネル（栗子トンネル）など矢板工法の歴史に関する話題、次に（株）熊谷組糸瀬氏による、相生ライン山岳トンネル工事を題材とした矢板工法の施工方法や小口径長尺先受け補助工法と融合した施工についての話題、最後に、飛鳥建設（株）川端氏による、矢板工法の施工方法や維持管理上の課題をNATMとの違いも踏まえた話題に続いて、昭和57～59年に施工された矢板工法の貴重な記録ビデオの上映会も実施いただきました。

話題提供後の質疑応答では、矢板工法の施工方法の考え方を中心に参加者の方々との活発な意見交換がなされ大変有意義な講演会となりました。

講演会翌日には成長建設JVさんのご厚意により、講演会参加者を対象とした現場見学会（山口県下松市）を開催し、14名が参加されました。実際の現場を見学することにより、講演会の内容と合わせて、矢板工法に関する知識がより深まったのではないかと思います。



講演会の様子



矢板模型の展示



現場見学会の様子